



中国輸入増で穀物価格再上昇に拍車

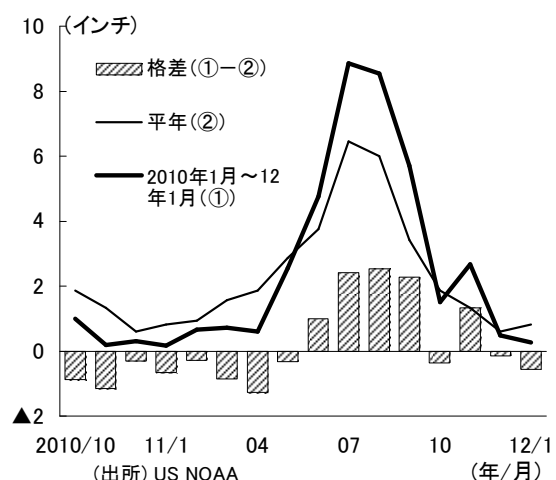
～ 南米ではラニーニャ影響 ～

- (1) 昨年12月初をボトムに穀物価格が再び強含み。F A Oによれば、本年1月の前月比上昇率は実質ベースで食料品全体で5.0%。内訳をみると油脂5.9%、穀物5.5%、砂糖5.4%。総じて新興各国の飛躍的な経済成長に伴う需要増に生産が追いつかない構図。とりわけ中国では昨年半ば以降、再び穀物輸入が増加（図表1）。年末に掛けて増勢加速。大豆は既往ピークとなった2010年後半水準。一方、小麦やコーンでは昨年12月、前月比4割増と急増。過去最多へ。
- (2) 背景には需要増に加え、天候不順も（図表2）。小麦など穀物生産の中心エリアである華北平原の降水量をみると、2010年秋から11年春の冬小麦は記録的な少雨に直撃。一転して11年春から夏の春小麦は平年を大幅に上回る降雨に打撃。さらに12年秋に播種された冬小麦は昨年末まで平年並みで推移していたものの、本年1月、昨年1月に比肩する少雨に。
- (3) 世界の主要な穀物生産国をみると、二つに大別（図表3）。すなわちアメリカやロシア、ウクライナなど生産量が豊富で輸出余力の大きい国と、中国やブラジルなど生産量が需要に足らず輸入に依存する国。中国では近年、経済成長に伴う需要増や農地転用の結果、生産量はむしろ横這い推移。天候不順など不測の事態次第では輸入依存を高めざるを得ず。例えば小麦で生産量、消費量が世界の2割に及ぶなど、穀物大国である中国の輸入増は国際的な需給逼迫を増幅させるリスク。
- (4) そうしたなか、中南米ではラニーニャ影響が次第に拡大。ブラジルの主な穀物生産エリアである中西部と南部について降水量と気温をみると、昨秋来、例年を大きく下回る推移（図表4）。アルゼンチンやメキシコでも同様。今後一段と穀物価格上昇が視野。

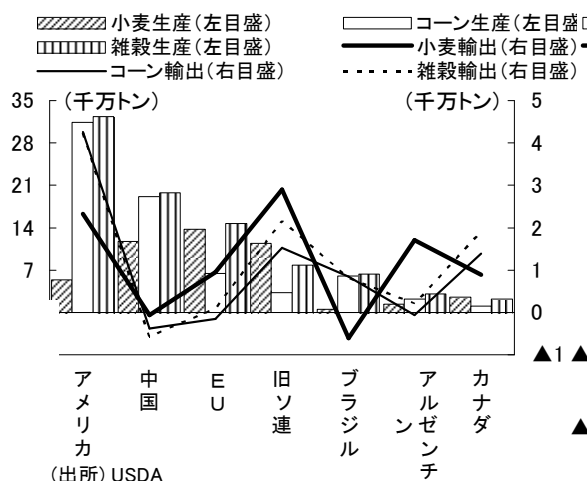
（図表1）中国穀物輸入量の推移（季調済）



（図表2）華北平原7省主要都市の降水量



（図表3）主要穀物生産国の生産量と純輸出量



（図表4）ブラジル中西部と南部の降水量と気温

